

授業実践の まとめ

小学校外国語科 第5学年

単元名 身近な人について伝え合おう（全5時間）

1 単元について

本単元は、相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて伝え合うことをねらいとしています。児童が自分の身近な人を紹介する語句や表現に出会い、無理なく慣れ親しんでいくことができるように活動の形態を変えながら、スモールステップで繰り返し聞いたり話したりできるようにします。そして、自分が伝えたいことを表現するために必要な語句や表現を選び、実際に使いながら伝え合うことができるようにします。また、伝えたことについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにします。

📖 [「単元デザイン FIRST STEP」](#)

2 単元の目標

相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。また、伝えたことについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「やり取り」	＜知識＞ 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解している。 ＜技能＞ 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う技能を身に付けている。	相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。
書くこと	＜知識＞ 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解している。 ＜技能＞ 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く技能を身に付けている。	本単元の評価規準は、「相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。」となるが、次単元と合わせて、記録に残す評価を行う。	本単元の評価規準は、「相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書こうとしている。」となるが、次単元と合わせて、記録に残す評価を行う。

単元（題材）の目標や評価規準の設定、指導と評価の計画については、国立教育政策研究所『[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)』や佐賀県教育センターWeb『[「単元デザイン FIRST STEP」](#)』、『[学習評価の進め方](#)』、『[学習評価 FIRST STEP](#)』を御参照ください。



4 指導と評価の計画

* 太字は、評価の場面となる学習活動を示しています。

* 太枠は、次の項で指導と評価の実際について示しています。

時	・学習活動○【】	学習評価	
		指導に生かす評価	記録に残す評価
1	○Sound Chant を A から D まで言う。 【Let's Listen】 ・教師による人物紹介を聞き、その人物が誰かを推測する。 【Let's Watch & Think】 ・単元ゴールの言語活動のモデルとなる映像資料を視聴し、具体的な情報を聞き取る。 ○単元の見通しをもつ。	行動観察 ワークシート 話すこと [やり取り] (知)	
2	○Sound Chant を A から D まで言う。 ○Small Talk : 好きな動物 【Let's Listen】 ・挿絵を見ながら、音声による登場人物やその家族についての紹介を聞き、人物を紹介するときの英語表現や家族の言い方を知る。 ○Word Chant : 家族 【Let's Listen】 ・登場人物が誰を紹介しているか聞いて、その人物を挿絵から選ぶ。 【Let's Speak】 ・登場人物になったつもりで、挿絵を見ながらほかの人物を紹介する。	行動観察 ワークシート 話すこと [やり取り] (知)	
3	○Sound Chant を A から D まで言う。 【Let's Listen】 ・挿絵を見ながら音声による会話を聞き、紹介している人を選択肢から選ぶ。 【Let's Play】 ・ある人物になったつもりで家族を紹介する。友達が誰になりきっているのかを当てる。 【Let's Talk】 ・自分の身近な人の名前や自分との関わりを伝え合う。 【Let's Read & Write】 ・相手に伝えたことについて、例文を参考に文の一部を書く。	行動観察 ワークシート 話すこと [やり取り] (知) (思) 行動観察 ワークシート 書くこと (知)	
4	○Sound Chant を A から D まで言う。 ○Small Talk : 家族や友達 【Let's Listen】 ・音声による会話を聞いて、登場人物が紹介した人とその人の性格や特徴を線で結ぶ。 【Let's Play】 ・ポインティングゲーム：性格や特徴を表す単語を聞いて指さす。さらに、He や She を付けて文章にして言う。 【Let's Talk】 ・自分の身近な人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、伝え合う。 【Let's Read & Write】 ・相手に伝えた自分の身近な人の性格や特徴などについて、例文を参考に書く。	行動観察 ワークシート 話すこと [やり取り] (知) (思) 行動観察 ワークシート 書くこと (知)	行動観察 ワークシート 話すこと [やり取り] (知) (思)
5	○Sound Chant を A から D まで言う。 【Let's Talk】 ・自分の身近な人について伝え合う。 ○自分の身近な人について伝え合う会話を聞き、具体的な内容を聞き取るとともに、伝え合うときの工夫について考える。 【Let's Read & Write】 ・伝えたことについて例文を参考に書く。 ○単元の学習を振り返る。		行動観察 話すこと [やり取り] (思) (態) 行動観察 ワークシート 書くこと (知)

※主体的に学習に取り組む態度は、時間を掛けて身に付けていくものですので、単元の終末に評価場面を位置付けていますが、単元を通して見取ります。

☞ [「学習指導プラン」](#)

5 本単元における指導と評価の実際

*「話すこと〔やり取り〕」の領域における指導と評価について示します。

1：言語活動と中間指導

本単元では、単元の終末に、単元ゴールの言語活動として「相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などを伝え合う」活動を設定しました。そして、単元ゴールの言語活動に向けて、ステップアップの言語活動を各時間に設定し、積み重ねていくことができるようにしました（表1）。言語活動の設定に当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などが明確になるように留意しました。

第3時及び第4時における言語活動と中間指導については、以下のとおりです。

(1) 第3時における言語活動と中間指導について

第3時の言語活動「相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わりを伝え合う」の指導に当たっては、言語活動の前にワークシートを配付し、児童が言語活動の見通しをもつことができるようにしました。その際、児童が伝えたい内容を明確にすることができるように、身近な人の名前や自分との関わりについて、ワークシートに記入するようにしました。

☞「ワークシート例」

1回目の言語活動では、自分の身近な人に関して、名前や自分との関わりを伝える語句や表現の意味を理解し、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合う技能を身に付けているかを行動観察し、児童の学習状況を適宜把握して指導に生かすようにしました（次頁資料1）。

言語活動（1回目）



Hello. This is (弟の名前).
He is my brother.

児童A

Hello. This is (先生の名前).
He is my teacher.



児童B

【児童A、Bの行動観察】

児童A、Bは、自分の身近な人の名前と自分との関わりを伝え合うことができているようだ。

【児童A、Bへの称賛】

Good!

【児童Aへの個別指導。内容の補足の促し】

Aさん、(ジェスチャーをしながら) Is this your younger brother or older brother?



弟です。

【児童Aの返答を英文にして表現】

I see. He is your younger brother.



英語で“brother”は、兄も弟も両方を表すことができるのですね。弟だと分かるように伝えたいと思います。



さっきの言い方だと何の先生か分かりませんよね？「ダンスの先生」と言いたいけど、どのように言えばよいですか。

【児童Bへの個別指導】

(児童Bのワークシートを見て) Bさんは、「ダンスの先生」と言いたいんですね。何と言ったらよいか、一緒に考えてみましょう。



【具体例の提示】

I'm your English teacher. (担任の先生を指して) He is your homeroom teacher.
(ワークシートのイラストを指して) This is your ...?

Dance teacher?

That's right. Dance teacher.
紹介してみてください。

【一言感想・文発話の促し】

【称賛】

Good job!

This is (先生の名前). He is my dance teacher.

資料1 第3時の言語活動（1回目）と個別指導

中間指導では、学級全体に、伝えたくても英語で表現できなかったことはなかったか尋ねたところ、児童の様子からおおむね表現できたと判断できたため、1回目の言語活動中に教師が数名の児童とやり取りした内容を全体で共有し、2回目の言語活動や次時以降の学習に生かすことができるようにしました（資料2）。

中間指導

【学級全体への共有】

みなさんのやり取りを聞いていて、もう少し知りたいと思うことがあったので、何人かの人に質問をしました。先生の質問がどのような内容だったか、クラスみなさんに教えてくださいませんか。

先生に、“brother”が、お兄ちゃんか弟か、質問されました。

【学級全体への共有】

そうでしたね。弟はどのように言ったらよいでしょうか。

“younger brother”

【学級全体への共有】

そうですね。お兄さんは、どのように言ったらよいでしょうか。

えっと…

お兄さんは“older brother”とすることができます。“older brother”や“younger brother”という言い方があるので、みなさんで言ってみますか（練習が必要かどうかを児童自身が判断できるように尋ねる）。

はい。

資料2 第3時の中間指導

その後、2回目の言語活動では、中間指導で知った表現を使うなどして学習改善を図る児童の姿も見られました（資料3）。

言語活動（2回目）

Hello.
This is (弟の名前). He is my younger brother.

Hello.
This is (先生の名前). He is my dance teacher.

Hello.
This is (姉の名前). He is my older sister.

Hello.
This is (先生の名前). She is my piano teacher.

個別指導や中間指導を受けて、改善して伝え合っているな。

※下線部は、個別指導や中間指導を受けて、改善した内容

資料3 第3時の言語活動（2回目）

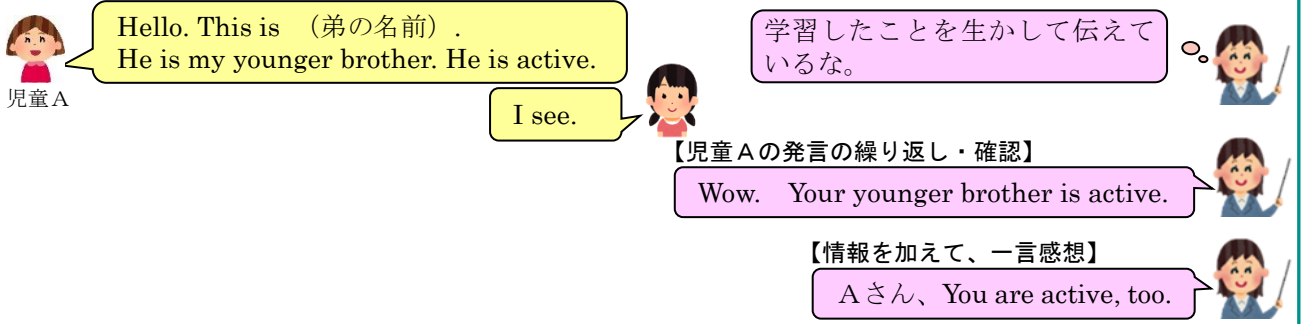
2回目の言語活動のあと、振り返りを行いました。そして、第3時の言語活動の様子と振り返りの記述から、第4時に向けて指導改善の方向性を考えました。

(2) 第4時における言語活動と中間指導について

第4時の言語活動「相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などを伝え合う」の指導に当たっては、第3時と同様に言語活動の前にワークシートを配付し、児童が言語活動の見通しをもつことができるようにしました。その際、児童が伝えたい内容を明確にすることができるように、身近な人の性格や特徴をワークシートに記入するようにしました。また、伝えるときに工夫したいことについても記入するよう促しました。☞「ワークシート例」

1回目の言語活動では、自分の身近な人に関して、名前や自分との関わりを伝える語句や表現の意味を理解し、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合っているかを行動観察し、児童の学習状況を適宜把握して指導に生かしました。第4時の導入で確認したこと（次項ワークシートでの振り返り）を児童が意識できるように、教師は積極的に情報を加えたり、相手が伝えたことに対して反応したりして伝え合うモデルを示しました（資料4）。

言語活動（1回目）



児童A: Hello. This is (弟の名前). He is my younger brother. He is active.

教師: 学習したことを生かして伝えているな。

児童A: I see.

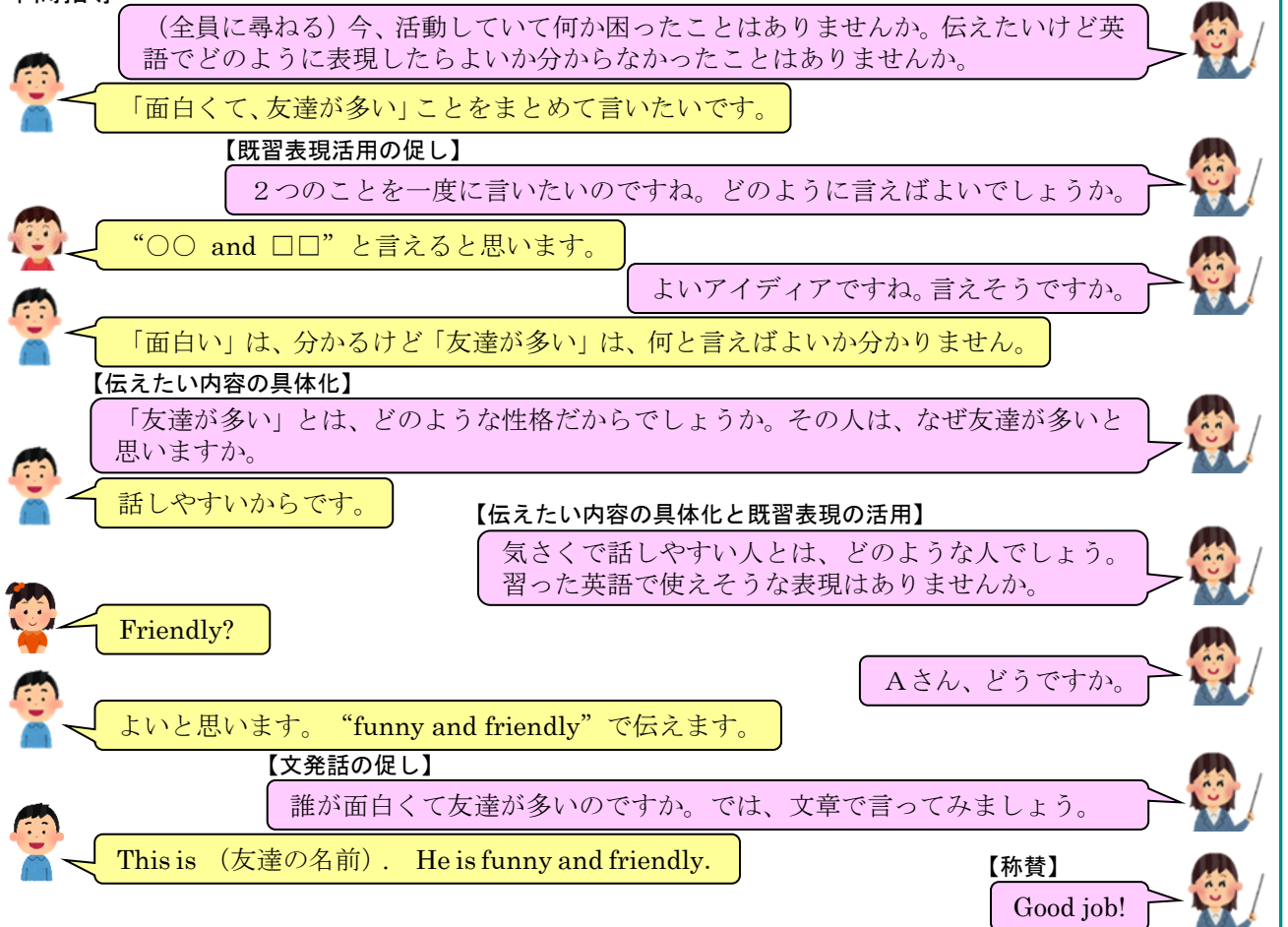
教師: 【児童Aの発言の繰り返し・確認】
Wow. Your younger brother is active.

教師: 【情報を加えて、一言感想】
Aさん、You are active, too.

資料4 第4時の言語活動（1回目）と個別指導

中間指導では、自分の身近な人について、伝えたい性格や特徴などが複数ある場合の伝え方について、困っている児童がいたため、児童とのやり取りを通して、伝えたい内容を伝えられるようにしました（資料5）。

中間指導



教師: (全員に尋ねる) 今、活動していて何か困ったことはありませんか。伝えたいけど英語でどのように表現したらよいか分からなかったことはありませんか。

児童: 「面白くて、友達が多い」ことをまとめて言いたいです。

教師: 【既習表現活用の促し】
2つのことを一度に言いたいのですね。どのように言えばよいでしょうか。

児童: “〇〇 and □□” と言えそうです。

教師: よいアイデアですね。言えそうですか。

児童: 「面白い」は、分かるけど「友達が多い」は、何とえばよいか分かりません。

教師: 【伝えたい内容の具体化】
「友達が多い」とは、どのような性格だからでしょうか。その人は、なぜ友達が多いと思いますか。

児童: 話しやすいからです。

教師: 【伝えたい内容の具体化と既習表現の活用】
気さくで話しやすい人とは、どのような人でしょう。習った英語で使えそうな表現はありませんか。

児童: Friendly?

教師: Aさん、どうですか。

児童: よいと思います。“funny and friendly”で伝えます。

教師: 【文発話の促し】
誰が面白くて友達が多いのですか。では、文章で言ってみましょう。

児童: This is (友達の名前). He is funny and friendly.

教師: 【称賛】
Good job!

資料5 第4時の中間指導

2回目の言語活動では、中間指導で言えるようになった表現を、言語活動の中で使う児童の姿が見られました。そこで、第5時へ向けて、学習改善の見通しをもつことができるようにしました（資料6）。

言語活動（2回目）

児童A: This is (友達の名前). He is my friend. He is funny and friendly.

児童B: Funny and friendly. Nice ! This is (兄の名前). He is my older brother. He is kind.

教師: 次は、児童が内容面について考えることができるように指導しよう。

児童C: Wow, your older sister is kind. お兄さんのどのようなところが親切なのですか。

児童D: 楽器を教えてください。お兄ちゃんは、吹奏楽部に入っています。

教師: なるほど。そのことも付け加えて話せるとよいですね。

資料6 第4時の言語活動（2回目）と個別指導

評価に当たっては、第4時の言語活動では、「話すこと〔やり取り〕」の知識・技能及び思考・判断・表現について記録に残す評価を行いました。学級の児童は、自分の身近な人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことはできていたので、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

2：ワークシートでの振り返り

毎時間の授業の終末で使用するワークシート内での振り返りを行う部分の作成に当たっては、振り返りの視点を明確にし、学習状況を見取りたい観点に合った質問項目を設定しました。第3時においては、知識・技能の観点で質問項目を設定しました（資料7）。

◆今日の学習を振り返って、あてはまるところに○をつけよう。		
家族や友達など、自分との関わりを表す英語が分かりましたか。	よくできた	できた
身近な人の名前や自分との関わりを伝え合うことができましたか。	よくできた	できた
◆今日の学習でできたこと、分かったこと、次にかんがりたいことを書きましょう。		

資料7 ワークシート内での振り返りを行う部分（第3時）

また、自由記述欄を設け、児童の記述は、学習と指導の改善に生かしました。第3時の児童の振り返りの記述の内容は、第4時の導入で活用し、児童が学習を調整したり、新たな目標を見いだしたりして、本単元及び本時の目標を達成できるようにしました（次頁資料8）。次頁資料8で紹介している児童Fの振り返り※1は、目標に向かって学習したことによって得た友達や学級への気づきです。このような言語活動の視点での振り返りを学級全体で共有することは、次の言語活動への期待感をもち、意欲的に学んでいくことにつながると考えました。

第4時の導入

教師: 前の時間の振り返りを紹介します。Cさんは、「分かりやすく伝えるためにいろいろ工夫したい」と書いていました。どのような工夫ができるでしょうか。

児童D: 兄か弟、姉か妹が分かるように、前に“younger”や“older”を付け加えて言いたいです。

教師: Dさんは、前の時間に学習したことを使って、より詳しく伝えることができるように工夫しようとしていますね。

児童E: Eさんも、何か工夫したいことを書いていましたね。紹介してくれませんか？

児童E: 性格を言えるようになりたいです。

教師: なるほど。どのような人なのかがよく分かってもらえそうですね。



児童G

Fさんは、「周りの友達は妹や弟が多くてびっくりしました※1」と書いていました。きちんと相手の話を聞いていたから気付くことができたのですね。伝える人もきちんと伝えられたのですね。聞くとき、伝えるときにどのような工夫をしていたのでしょうか。

Fさんは、相手の顔をよく見て聞いていたし、うなずいたり反応したりしていました。

なぜ、Fさんは、うなずいたり反応したりしていたのでしょうか。

相手がうなずいたり反応したりすると伝わったかどうか分かるからです。

【情報追加、相手への反応促し】

なるほど。伝わっているかどうか互いに確かめ合うことも大切ですね。今日は、相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、身近な人の性格や特徴などを伝え合いましょう。分かりやすく伝えるための工夫もできるとよいですね。





資料8 第4時の導入の様子

第4時の児童の振り返りには、「性格や特徴を伝え合うと、自分との関わりなど、その人のことをより伝えられた。知ることもできた」といった記述が多く見られました。性格を加えて伝えることで、自分の身近な人についてより詳しく伝えることができることを感じる児童の様子を見取ることができました。児童の振り返りには、児童自身の成長を価値付けたり、学習改善の方向性を示したりするようなコメントを書いて返却し、児童が次時まで学習改善に生かすことができるようにしました。

「話すこと〔やり取り〕」の知識・技能の評価については、教師による行動観察から、児童H、児童I共に、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

「話すこと〔やり取り〕」の思考・判断・表現の評価については、教師による行動観察と児童の振り返りの記述分析から、第4時では、児童H、児童I共に「おおむね満足できる」状況（B）と判断しましたが、第5時と合わせて記録に残す評価を行う計画のため、第5時の学習状況を見て、最終的な評価を記録に残します。

児童Hは、第3時に表現が不十分で伝わらなかったと感じたことについて、第4時では表現を加える工夫をすることができました。（資料9）。

児童Iは、第4時には、自分の身近な人のことをより知ってもらうために、その人が吹奏楽部に所属していることを加えようと考えています（資料10）。

児童H、児童I共に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて表現や内容を工夫したり、自らの学びを振り返りながら、自分自身の成長を確認したり、次の課題を見付けたりしていると見取ることができました。

第5時の導入では、他者に配慮しながら伝え合うために、どのような工夫をしたらよいか考えるよう促し、相手の理解を確かめながら話したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて相手に質問をしたり答えたり、感想を言ったりすることができるように指導しました。

【児童H_第3時】

◆今日の学習でできたこと、分かったこと、次にかんがりたいことを書きましょう。

今日、しょうかいしたとき英語だと弟が兄か伝わらなかったの、次は工夫して伝えたいです。

次に、かんがりたいことが見つかっていました。

【児童H_第4時】

◆今日の学習でできたこと、分かったこと、次にかんがりたいことを書きましょう。

今日、兄と伝えるときに「big」をつけて伝わるように工夫しました。

すばらしい！工夫して伝えられました。

資料9 振り返りの記述（児童H）

【児童I_第3時】

◆今日の学習でできたこと、分かったこと、次にかんがりたいことを書きましょう。

家族の英語を覚えられました。今度は、家族だけでなく友達、先生もしょうかいしてみたいと思いました。

しょうかいするときの英語が、かかると分かったの、他にもしょうかいしたい人がある。

【児童I_第4時】

◆今日の学習でできたこと、分かったこと、次にかんがりたいことを書きましょう。

性格を表す英語を使って話すことができました。「すいそうがく部」という英語が何ていうのか、今度聞いてみたいです。まだ、特ちょうを全部はっきり話すことができなかったけど、次もがんばりたいです。

お兄さんについて、くわしく伝えたいと考えているんだね。

資料10 振り返りの記述（児童I）

ワークシートの作成及び指導と評価のポイント（「話すこと [やり取り]」のみ）は以下のとおりです。

Unit2 あこがれの人を紹介しよう
Lesson3 身近な人について伝え合おう④
◆4線上に名前を書きましょう。小文字の高さに気をつけてね。

Name _____

Today's goal: 自分の身近な人のことを知ってもらうために、身近な人の性格や特ちょうを伝え合おう。

[Let's Talk]

(ウ) 性格・特ちょう _____

★こんな工夫ができたらいな _____

[Let's Read & Write]

(ウ) _____ is _____

◆今日の学習をふり返って、あてはまるところに○をつけましょう。		
性格や特ちょうを表す英語が分かりましたか。	よくできた	できた
今まで学習したこと合わせて、身近な人の性格や特ちょうを伝え合おうことができましたか。	よくできた	できた

◆今日の学習でできたこと、分かったこと、次にかんがりたいことを書きましょう。

「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の2観点を見取ります。「思考・判断・表現」の観点では、記述は児童による自己評価であることに注意し、授業中の行動観察と共に評価を行う際の参考資料として、指導改善に生かします。

①名前を4線上に正しく書くことができますようにします。ヘボン式で書くよう指導します。

②「話すこと[やり取り]」の言語活動の前に、自分の考えをもつことができますようにします。

③振り返りの視点を明確にし、見取りたい観点に合った質問項目を設定し、答えやすい選択肢を提示します。

④児童が今日の学習のできようになったことや分かったこと、次に頑張りたいことなどについて記述できるよう自由記述の欄を設けます。

コミュニケーションの目的、場面、状況等に応じて、どのような工夫をしようとしているかを見取ります。児童がどのような考えをもっているか、どのような工夫をしようと考えているのかを把握し、後の言語活動の様子を観察したり、中間指導を行ったりします。

【思】コミュニケーションの目的、場面、状況等に応じて、どのような工夫をしたのかを見取ります。【主】知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を見取ります。児童の振り返りの記述は、行動観察と合わせて児童の様子を把握することに活用します。児童の振り返りにコメントを返し、児童が自身の学習改善につなげることができるようにします。

📄「ワークシート記入例」

6 授業実践を終えて

本単元では、単元ゴールの言語活動を「相手に自分の身近な人について知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などを伝え合う」と設定し、授業実践を行いました。単元の目標を達成するために、毎時の授業で、言語活動→中間指導→言語活動の流れを繰り返し、言語活動を通した指導を行いました。また、ワークシートを活用することで、毎時の授業での行動観察と振り返りを指導改善に生かし、児童が学びのつながりを意識して学習改善を行うことができるようにしました。

言語活動を通した指導に当たっては、本単元で育成を目指す資質・能力を明確にし、単元の目標を達成した児童の姿を具体的にイメージしました。そして、単元ゴールに向けた各時間の目標及びステップアップの言語活動を設定し、適切に評価場面を位置付けた指導と評価の計画を作成しました。それらのことを踏まえて、言語活動→中間指導→言語活動の流れの中で児童の学習状況を把握し、児童が学習改善を図ることができるよう助言や指導を行うことができました。そうすることで、児童は自分が伝えたいことを伝えるための英語を、実際に使いながら身に付けていくことができるようになったと考えます。

ワークシートの活用においては、振り返りの視点を明確にして、学習状況を見取りたい観点に合った質問項目を設定したことで、児童は自らの学びを振り返ることができました。さらに、振り返りを全体で共有したことで、児童は、他者の考えや取組を知ることができ、学習改善につなげることができたと考えます。

児童の学習改善及び教師の指導改善に生かすために、振り返りについては、まだ改善の余地があります。確実に振り返りの時間を確保し、できるようになったことだけでなく、どのようにしたらできるようになったのか、なぜそのようにしたのか、次にどのようなことを工夫するかなどの学び方に着目した振り返りができるようにしたいと考えています。さらに、毎時の授業の終末に限らず、目的に合った適切なタイミングで振り返りを行うことで、児童の学習改善及び教師の指導改善につなげていきたいと思ひます。